

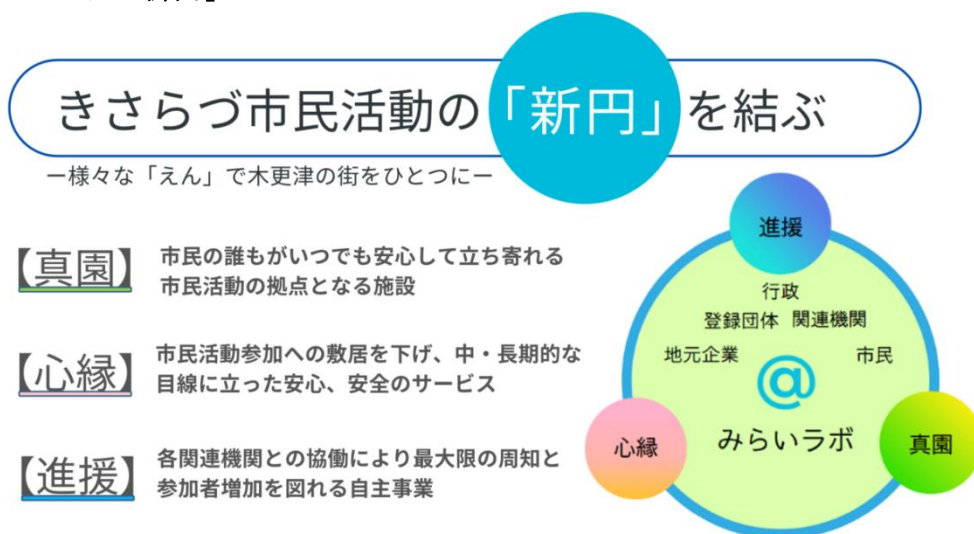
1. 前年度までの振り返りと次年度以降の取組み

1 期目にあたる 3 年間は「施設に一人でも多くの市民の皆さまを迎える事」を目標に、魅力ある施設作りに努め、市民の皆さまに向けたサービス、専門性のあるセミナーや情報発信等の活動団体の皆さま向けサービスなど、幅広いサービスを展開することで、1 期目最終年度の令和元年度には初年度と比較して「利用者数、利用回数、利用率、相談件数、登録団体件数」が増加する結果となった。

しかし、2 期目の初年度には新型コロナウイルスの感染拡大により、施設の営業時間短縮や利用制限を余儀なくされ、施設から利用者の足は遠のき、利用者数などの全項目においてコロナ禍前と比較すると大幅に減少となる。そこで対策案として with コロナによる管理運営方法を検討し、木更津市における市民活動の漸減を取り戻すべく、自主事業のオンライン開催、各 SNS や広報誌による率先的な広報により地域活性化の取組みを行い、各利用の回復に繋げることに成功。

3 期目の令和 5 年 4 月に本施設が移転となり、取り巻く環境の変化や施設面積の縮小などにより、一部の団体とは疎遠になり、利用者の減少を余儀なくされることになるが。この変化をあらたなスタートを切る良い機会だと前向きに捉え、今まで培ったノウハウを活かしつつ、「新たなみらいラボ」を構築するべく、今まで以上に利用者の利便性を最優先に考えた管理運営を行う。

・コンセプト「新円」



- 行政、市民、登録団体、関連機関、地元企業、そして本施設のそれぞれ持つ、市民活動への積極的な意思が交差して様々な「えん」を形成し、相乗効果により、みらいラボ、引いてはこの木更津全体の活性化に繋がることを目的としたテーマ。

【真園】

コロナウイルス感染騒動により停滞した市民活動を以前のように活性化させるため。また移転後の「新たなみらいラボ」としての存在意義を示すため、全ての木更津市民が安心して活動できる拠点となるような施設作り。

市民活動支援センター 次期指定管理期間の目標と取組み

【心縁】

「市民活動支援センター」として、市民の誰もがいつでも立ち寄り、文化的活動の知的財産を共有できる憩いの場所としての確立。また、異なる文化が持つ多様性を互いに尊重し合い、絆を築けるような健康、環境、教育に関する講座の開催や環境保全を促進する自主事業の実施。

【進援】

市民活動における地域の課題解決のために必要な協働を実現するべく、各主体間共通の目標を明確にし、そこに向けての協力体制を築き上げ、成功体験を積み重ね、それを共有できるような能動的且つ継続的な支援体制。

2. 次年度以降の目標と基本方針

1. 目標値

目標値	指定管理 第4期目		
	令和7年度	令和8年度	令和9年度
利用者数	9,000人	10,000人	11,000人
利用回数	700件	800件	900件
会議室稼働率	32%	34%	36%
相談件数	110件	130件	150件
登録団体件数	160団体	170団体	180団体

・基本方針

1. 利用促進および新規団体数の拡大

- 広報活動のさらなる強化により、施設の存在意義と魅力を地域住民に浸透。
- 団体設立支援プログラムおよび個別相談を実施し、新規団体の設立を促進。

2. 自主事業の活性化

- 現行のイベントの内容を再検証し、参加者のニーズに応じたプログラム改善を実施。
- オンラインと対面を融合したハイブリット型イベントの導入により参加への敷居を軽減。

3. 市民活動における交流およびネットワークの拡充

- 定期的な協働事業により、登録団体間および地元企業との連携を深化。
- オンラインプラットフォームを検討し、情報共有とリアルタイムなネットワーク形成を推進。

4. 施設環境の整備と安全対策の強化

- 利用状況データに基づいた施設改善を策定し、備品配置、安全設備の充実を図る。
- 利用者のフィードバックを反映した定期的なサービス向上体制を確立。

5. 広報・PR 活動の強化

- 地元メディア（ラジオ、情報誌、SNS 等）との連携拡大により、活動成果や成功事例を積極的に発信。
- 定期刊行物「ラボ通信」の内容充実を図り、施設利用者および地域住民に前向きな活動事例を提示。

・具体的な活動内容

1. 人的、物的リソースの効率的運用

- スタッフによる業務分担を明確化。各プログラムの事前準備、実施、フォローアップの役割を明確にし、効率的な運営を実現。

2. 若年層、移住者を主な対象にした地域密着型の体験イベント

- 地域愛着を醸成するべく上記対象を主体とした地域住民向けに木更津の伝統・歴史文化を背景としたイベントを実施。地域の歴史散策、伝統工芸・郷土料理の体験などをしてもらう木更津市民としての意識とともに木更津市の文化にふれてもらう。
- 地域の歴史文化団体、自治体、地元企業との連携を図り、運営支援および資材提供など、持続可能な体験イベント運営体制を確立。

3. 防災・減災対策プログラムによる地域一帯の連携強化

- 地域住民の連帯感と防災意識向上のため防災・減災に関するセミナーおよび講習会を開催家庭内防災対策、地域連携の重要性、災害時の情報伝達方法など、具体的且つ実践的な知識の習得を促す。

市民活動支援センター 次期指定管理期間の目標と取組み

3. 令和7年度 自主事業実施計画表

上記の要項を踏まえ、令和7年度、みらいラボは地域課題、利用者のニーズに合せた14の自主事業と2つの販売事業を行う。

令和7年度 木更津市市民活動支援センター事業計画書																
分類	NO	自主事業名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	頻度	年回数
			月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月		
イベント事業	1	全登録団体交流会					○								年1回	1
	2	SDG,s推進事業		○								○			年2回	2
	3	市民活動ボランティア講座							○						年1回	1
	4	ボランティア市民活動マッチングプログラム	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	通年	12
	5	市民活動スキルアップ講座								○					年1回	1
	6	みらいラボフェスタ								○					年1回	1
	7	地域を学ぶ、木更津学講座							○						年1回	1
	8	プログラミング体験会				○									年1回	1
	9	親子のアトリエ										○			年1回	1
	10	地域のふれあい清掃活動		○											年1回	1
	11	市民協働事業	○					○						○	年3回	3
	12	自然とふれあう環境体験プログラム							○						年1回	1
	13	子育て支援談話会				○							○		年2回	2
	14	防災・減災講座						○							年1回	1
販売事業	15	きさらづみらいCAFE	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	通年	12
	16	物品販売	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	通年	12

【総括】

市民活動支援センター〔みらいラボ〕は、現行の運営実績を踏まえつつ、地域社会との連携をさらに強化することで、今後も前向きな市民活動の拠点として機能する。

確実な地域活性化および市民発動の促進に寄与するために、広報活動を主体とした戦略的アプローチにより地域住民や新規参加者の関心を喚起。

各施策は、利用者・登録団体の声を反映しながら、柔軟かつ積極的な運営体制の確立に尽力。地域連携を深化させ、自治体や地元企業との協働により、持続可能な市民活動支援体制を確立する新たな取り組みを通じ、地域全体の活性化と持続的発展を実現することを目指す。

以上。